資料ー9

河川事業に関する報告事項
（参考資料）

令和元年　7月31日

国土交通省　東北地方整備局

１）河川学識者懇談会等の名簿　・・・ 1P

２）各事業の概要　・・・ 2P

３）河川事業の審議結果　・・・ 3P

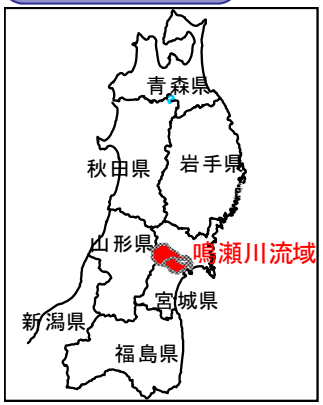
1）学識者懇談会名簿

河川名	学識者懇談会名	正副委員長等	No	委員名	所属等	専門分野
鳴瀬川	鳴瀬川水系河川整備学識者懇談会		1	渥美　巖	東松島市長	地方自治
			2	伊藤　康志	大崎市長	地方自治
			3	猪股　洋文	加美町長	地方自治
			4	梅田　信	東北大学　大学院　工学研究科　准教授	河川
		副座長	5	風間　聡	東北大学　大学院　工学研究科　教授	水文
			6	加藤　徹	宮城大学　名誉教授	農業水利
			7	河野　達仁	東北大学　大学院　情報科学研究科　教授	費用便益分析
			8	太田　宏	東北大学　高度教養教育・学生支援機構　助教	両生類、は虫類
			9	高崎　みつる	石巻専修大学　理工学部　食環境学科　教授	衛生・水質環境
			10	髙取　知男	仙台市科学館　元副館長	魚類
		座長	11	田中　仁	東北大学　大学院　工学研究科　教授	水工

2） 鳴瀬川総合開発事業【事業概要】

- 鳴瀬川総合開発事業は、鳴瀬川水系筒砂子川において、「洪水調節」「流水の正常な機能の維持」「かんがい用水の補給」「発電」を目的とした筒砂子ダムの新規建設と、鳴瀬川水系鳴瀬川において既設漆沢ダムの治水専用化を行うものである。
- 平成4年度から実施計画調査を開始し、平成29年度に建設段階へ移行。
- 令和18年度の完成に向け、環境影響評価手続き及び基本計画検討を行うとともに、ダム建設に向けた各種調査・設計検討を実施している。

位置図



事業内容

- 実 施 箇 所 ： 宮城県加美郡加美町
- 事 業 期 間 ： 平成4年度～令和18年度
- 事 業 費 ： 約1,220億円

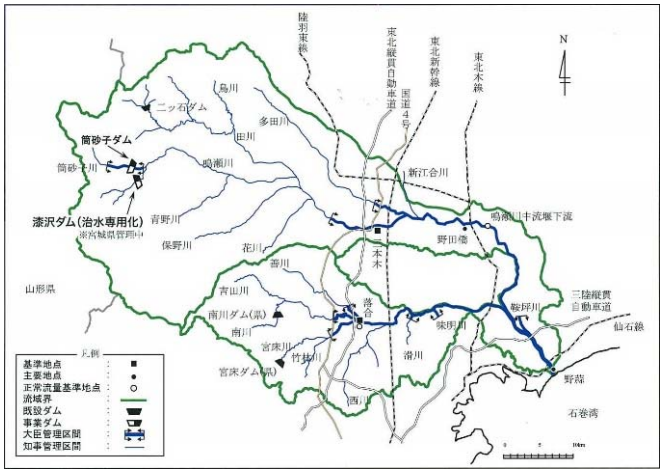
＜ダム諸元＞

施　設　名	筒砂子ダム	漆沢ダム
事 業 内 容	新規建設	治水専用化
ダ ム 形 式	台形CSGダム	ロックフィルダム
ダ ム 高	105.0 m	80.0 m
堤 頂 長	345.8 m	310.0 m
総 貯 水 容 量	45,700 千m³	18,000 千m³
うち治水容量	12,200 千m³	9,500 千m³ → 16,000 千m³
うち利水容量	31,300 千m³	6,500 千m³ → 0 千m³
湛 水 面 積	1.5 km²	0.83 km²
集 水 面 積	42.4 km²	58.9 km²

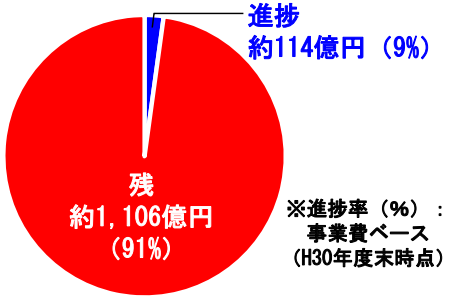


ダム完成イメージ

全体平面図



事業進捗



※進捗率（%）：事業費ベース（H30年度末時点）

事業効果

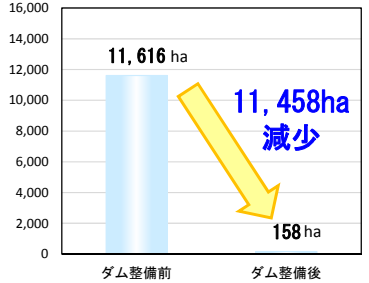
- 昭和22年9月洪水（戦後最大洪水）と同規模の洪水を想定した場合、事業実施により浸水面積は約11,458haの軽減効果が期待できます。
- また、浸水区域内（河川整備基本方針規模の洪水）の避難行動要支援者数は約9%（1,573人）、想定死者数（避難率40%）は約26%(53人)の軽減が想定されます。

事業の進捗見込み

平成29年度に建設段階に移行し、ダム本体の実施設計に向けた測量、水理水文調査、環境調査、地質調査、用地調査等を実施しています。


環境調査(猛禽類)


地質調査



ダム整備前後の浸水想定面積
昭和22年9月(戦後最大)規模の洪水による想定

3）河川事業の審議結果

河川事業に関する再評価結果一覧【報告事項】

【公共事業関係費】
【河川事業】
（直轄事業）

No.	事業名 事業主体	総事業費 （億円）	費用便益分析（社会的割引率考慮後） 貨幣換算した便益：B（億円）	便益の内訳及び主な根拠	費用：C （億円）	B／C	貨幣換算が困難な 効果等による評価	再評価の視点 （投資効果等の事業の必要性、事業の進捗見込み、コスト縮減等）	審議結果
1	鳴瀬川総合開発事業 東北地方整備局	1,220	874	【内訳】 被害防止便益：438億円 流水の正常な機能の維持に関する便益：428億円 残存価値：8億円 【主な根拠】 洪水調節に係る便益： 年平均浸水軽減戸数：126戸 年平均浸水軽減面積：127ha 流水の正常な機能の維持に関する便益： 流水の正常な機能の維持に関して、筒砂子ダムと同じ機能を有するダムを代替施設とし、代替法を用いて計上。	733	1.2	河川整備基本方針規模の洪水が発生した場合、浸水区域内の避難行動要支援者数は、約9%（1,573人）、想定死者数（避難率40%）は、26%（53人）の軽減が期待される。	①事業の必要性に関する視点 ・鳴瀬川流域では、過去の昭和22年9月、昭和23年9月、昭和61年8月、平成27年9月洪水等により甚大な浸水被害が発生している。また、かんがい用水では、未だ水量が不足しており、番水や用水の反復利用を余儀なくされている。 ・鳴瀬川流域内市町村の総人口は、平成12年をピークに緩やかな減少傾向で推移しており、総世帯数は緩やかな増加傾向で推移している。 ・農業生産額は、平成15年まで緩やかな減少傾向で、その後は横ばいで推移している。また、製造品出荷額は、平成11年まで増加し、その後緩やかな増加傾向で推移していたが、仙台北部中核工業団地への工場進出により平成24年から平成29年にかけて急激に増加している。 ②事業の進捗の見込みの視点 ・鳴瀬川総合開発事業は、平成29年度に建設段階に移行し、ダム本体の実施設計に向けた測量、水理水文調査、環境調査、地質調査、用地調査等を実施している。 ③コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点 ・「鳴瀬川総合開発事業」の検証の中で、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に基づき評価した結果、総合的な評価としては、コスト的な観点から見た実現性等の面から「筒砂子ダム規模拡大と漆沢ダム（既設）との容量再編により田川ダムを中止」が最も有利であると評価している。	継続